

第3回流山市環境基本計画策定部会 議事録

平成26年3月6日 13時30分開会 16時00分閉会

出席委員：

吉永明弘部会長、和田登志子副部会長、新保國弘審議会会長、秋元五郎委員

※中大路早智江委員は欠席

事務局（環境政策課）：

染谷課長、齋藤課長補佐、遠藤副主査、岩田主事、小山内事務員

リジョナル・プランニング・チーム（コンサルタント）1名（内藤）

1. 改定の考え方及びスケジュールについて（コンサルタントによる説明）

委員からの意見等

発言者	要旨
委員	望ましい環境像について、案が6つあるうちの、言葉の1つがここにくるといふことか。
事務局	10年後の流山市を考えたとき、こうあって欲しいという望ましい環境像があって、そのための5つの基本目標ということである。
部会長	そうであれば、10年後の環境像と説明したほうが意図が明確になる
コンサル	そのような計画もある。10年とした場合にも、イメージを限定して我慢しすぎないほうがよい。もっと先を見たイメージでも構わない。ここは割と抽象的なイメージで、流山らしいイメージが伝わるとよい。
事務局	望ましい環境像を定めない計画はあるか。
コンサル	あるが、あまり見ない。なくても計画は成立するが、格好がつかないかもしれない。
部会長	10年後にも環境を壊さないで維持、確保し、今も将来も環境を享受するということを、入れられればと思う。サブタイトルで、10年後にも今と同じく豊かな環境で暮らせるようにと表現するのもよい。自分としては、未来、将来に伝えることが大きなテーマと思うので、そのような表現をどこかに入れたい。
事務局	現計画のキーワード（案1）は、水、緑、歴史という流山市で大事なものを未来に継承することが表現されている。エコライフ等だと、将来像としては軽めな印象がある。循環型社会や低炭素社会は、市の施策として取り組んでいくものだが、情勢によって舵の切り方が変わる面もある。10年間を通して、これが流山だと市民に思ってもらえる言葉がいいように思う。
事務局	（コンサルタントに）基本目標の5つをやることによって、環境像を実現するという関連をもたせるべきか。
コンサル	理屈上はその関係にあるが、表現としてそのことを意識し過ぎると、環境像の言葉のインパクトが薄れる場合もある。環境のことを考えているので、おのずと結びつくともいえる。この基本目標案は具体性を表現したつもりで、環境像はそこから昇華し、より抽象的に、流山を表現するものと捉えている。
事務局	（コンサルタントに）案1（現計画）に入っている歴史という言葉が他の案には入っていないが、何か意図があるか。

コンサル	歴史は環境を捉える上でベースとなる重要なものと考えている。しかし、環境基本計画を議論する中では、文化財として捉えられてしまう場合が多く、環境でなぜ歴史なのかとよくきかれることから、他の案には歴史という言葉を入れていない。
部会長	水や緑とともに、人々が自然環境と付き合ってきた歴史を未来に伝える、というのは、環境と矛盾はしないし、重要と思う。生物多様性だと、未来に残すまちという感じだろうか。そういったところで、案1は具体的である。進捗管理をみると参加している人が多いことがわかるが、それもまた短いけれど文化、伝統、歴史といってもよい。基本目標5にあるように、これまでやってきた活動をこれからも伝えていくとすれば、「歴史を」としてもよいのではないか。
委員	ここの部分で腰が定まらないのには、計画の背景に物語、ドラマ、背骨がなく、わかりにくいことがある。生物多様性、地球温暖化、震災といったものが、整理されないまま並んでいる。水は水域、緑は陸域という人が暮らすのに必要な空間で、歴史とは縄文時代の昔からここに暮らしてきた人の歴史だという捉え方を、示す必要がある。地球誕生から46億年の中で、ほんのわずかな人の歴史において環境が激変していることもある。国際的な環境問題への取組、持続可能な開発の概念は、国連人間環境会議（1972 スtockホルム）とStockホルム宣言がスタートであり、20年間の空白ともいえる期間を経て、地球サミット（1992 リオ・デ・ジャネイロ）が開催され、1993年に生物多様性、1994年に気候変動の条約が発効したという流れがある。このことをわかりやすく書かないと、現在の環境基本計画が理解されないと思う。
副部会長	流山市の話が、計画の背景の説明文で飛んでしまう部分は自分も気になるところで、これらは勉強すべきものとして参考資料にまとめたらどうか。基本的事項から基本的な目標につなげてしまえば、読み手に言いたいことが伝わると思う。今のようだと、計画の背景で読み手はめげてしまって、先を読まないように思う。
委員	物語性をもたせ、小中学生の学習に役立つような内容が望ましい。自然とは生きもののことだけでなく、石油石炭はかつての生物から生じたというようなことも知って欲しい。森林も鉱物も自然の恵みであり、その無鉄砲な利用が環境問題につながっている。また、震災と原発事故では災害に対する価値観が変わり、絶対安全や完全な防災はなく、災害にどう対応し、被害をいかに克服するかが問われるようになった。これらの理解がないと環境基本計画にむすびつかず、エコライフ等の言葉は軽い感じがして、環境像にはあわないように思う。
副部会長	自分も案1はよいと思う。流れが水で、山が緑というイメージ、そして、自然とともにある人の歴史の豊かさをみんなで未来に伝えるというのは、子どもに教えやすい。さらに、最近のイメージを加えて、森のまち流山としたらどうか。
委員	オオタカは適応性が強くて23区の公園でも繁殖が見られ、種の保存法から外されて調査されなくなる可能性もあるので、キーワードに使わないほうがよい。後で苦しくなるかもしれない。駅名等については、ひらがなを使って区別していると説明できる。
事務局	計画の背景について、世界や国の動向は割愛して、流山市のことで説明したらいいかとも考えていた。今の話から、地球温暖化対策等につなげるならば、もっとしっかり書く必要を感じたが、計画書をできるだけ薄く読みやすくすることも求められているので、参考資料にま

	とめる案はよいように思う。また、日本の中では、環境政策は典型 7 公害に対する生活環境保全から始まった経緯もあり、世界の流れと合わせてしっかり書くと、長くなりそうである。
委員	長いとかえって解りにくい。文章力を発揮して短くまとめて欲しい。
副部長	年表にしてもよいのではないか。キーワードがあれば、子どもがインターネットで調べることができる。
コンサル	計画の背景はご指摘の通りで、環境行政の出来事を並べるように作成している。環境問題では、なぜなにが問題なのかという思想的な歴史があるので、物語性をもたせる場合は環境に対する考え方の流れがわかるような要約がイメージされる。国内では、田中正造に始まる公害問題と自然保護の視点があり、世界の環境の考え方と一っしょになって今に至っている。詳しい出来事については年表で表せる。
委員	よいキーワードを押さえた短い文ならば、読み手に伝えられる。例えば、生物多様性条約の COP11 (2012 ハイデラバード) では、「自然を守れば自然が守ってくれる (Nature protects if she is protected)」がスローガンであった。「都心から一番近い森のまち」「母になるなら流山」はよい。
コンサル	歴史の豊かさという言い方は、環境を知らない人にうまく伝わるかどうか。文化財がいっぱいあるというように思われないか。
事務局	環境像の説明は必要と思う。世界的な流れについては、見識をお持ちの審議会委員の方々に書いて頂く方法も考えられる。
副部長	こんな問題が起きたのでこのような考え方が生まれたというような対比ができると、子どもにもわかりやすい。長い時間の視点も欲しい。
コンサル	世界的なレベルでは、政治的主張も交えた複雑な状況があるので、普遍的な説明は難しいかもしれない。行政の計画書ということもある。
部長	歴史が文化財と言われてしまうならば、歴史のかわりに風土とってはどうか。風土には歴史も含まれる。Sustainable の訳として、人による持続の可能というよりも、有限な環境の維持の可能というほうが適切という主張がある。伝えるで間違いではないが、自分としては、今まで残されてきた環境自体をこれからも残す、維持するという言い方のほうが、強く伝わると思う。
副部長	例えば、2つのフレーズを使って、「水・緑・風土の豊かさを 市民みんなで未来に残そう 都心から一番近い森のまち 流山」とするのはどうか。
委員	「都心から一番近い森のまち」は、グリーンチェーン戦略を始めた頃に言い出したかもしれない。森のまちは、高速道路から新川耕地の斜面林を見たときに感じる。
委員	「伝える」よりも「残そう」のほうが重みを感じられる。
副部長	「未来」にかえて「次世代」がいいかもしれない。「母になるなら」にもつながってくる。「子ども」でもわかりやすい。
コンサル	「豊かさ」でよいか、他に「美しさ」などがよいか、そのあたりはどう思われるか。
委員	「美しい」が本来的かもしれない。
部長	生態系サービス、自然の恵みから、「豊かさ」はいいように思う。
委員	「豊かさ」の中に「美しさ」もあるのだろう。

副部会長	「豊かさ」に「安心・安全」も含まれ、母親の意識にもつながる。自分の子だけではないので「子どもたち」か。
コンサル	「子」が単数形なので、本来ならば「子ども」「子ら」でよいと思う。
委員	環境像は大事、長くても2行で、読みやすくしたい。
部会長	短めにまとめると「水・緑・風土の豊かさを、子どもに残そう、森のまち・流山」というところか。「みんなの力で」は後のところでも全般的にわかる。
全員	風土には歴史も土も空気も含まれるのでよい。環境像はこの案で同意する。
部会長	基本目標以降についてのご意見はどうか。
コンサル	オオタカ、里地里山という言葉についてはどうか。
委員	「里地」はいらないように思う。「オオタカ」は「おおたか」という固有名詞的な使われ方がされている。生物多様性の物差しとしてはあまり適していない。
事務局	「オオタカ」に引っ張られてしまう感じがある。他の生物も豊かにいるということが入るとよいのではないか。
委員	「多様な生きものがすむ」ではどうか。
部会長	「里山の自然」は多様な生きもののことでもある。
副部会長	簡単に「色々な生きものがすむ」がいいかもしれない。
委員	市野谷調整池、大堀川、宮園調整池など水域も多いので、「水と緑」がいいように思う。
副部会長	15ページの拠点の部分に地区が2つしかないが、他の地区はどうか。
委員	その通りで、南部地区と東部地区で拠点が無いという偏りがあり、それに対して拠点の充実が課題である。
コンサル	今回の計画で、拠点でなくとも自然学習の場所など、新たな方向性を検討するのもよい。
委員	県のウォーキングマップづくりの話もある。
副部会長	思井の森はどうか。
事務局	モニタリングをどうやっていくのかという問題もある。
事務局	15ページは現状の拠点を示しただけなので、計画の参考資料には自然環境マップ等を掲載できる。
事務局	日本自然保護協会の方が作成した地図を使い、流山市も入ってウォーキングをやるという企画が進んでいる。
委員	拠点とするには、調査も必要なので、ウォーキングとは別に考えたい。
コンサル	生物多様性の拠点とは別に、市民が自然に親しむというような方向で、名前をあげていけるとよいのではないか。
副部会長	南部地区と東部地区についても配慮を示せればと思う。芝崎小鳥の森もある。
委員	そのあたりについては、生物多様性戦略の策定では予算等の制約から、調査等を前提とした拠点を位置付けられなかった経緯がある。
事務局	5つの基本目標で柱建てをしていることについて、ご意見はないか。
事務局	1～4で環境基本計画の取組が全部入ってくるが、5はそれらとは異なるものといえる。
コンサル	その通りで、5の内容を施策全般に通じるものとして章を別建てする方法もあるが、体系の

	見出しを見て、施策の中に市民参加や環境学習がないと言われる場合も考えられる。
事務局	市の総合計画でも、実行性を担保するためということで、6本目の柱が同様のものとなっている。
部会長	文末の「課題となっています」について、ここは課題としての段階と思うが、基本目標6の4など、今こういう活動があるのでそこに参加するというような書き方がわかりやすいのではないか。
コンサル	施策や重点的取組の部分で、具体的な内容を記載する予定である。
副部会長	課題というよりも、こうします、市民にこうして欲しいと書くほうがいいのではないか。
事務局	(コンサルタントに)基本目標が目的で、そのためにこうしますというのが①～なのか。「課題です」という整理の仕方はどうなのか。
コンサル	基本目標に向かってこうしたいというのが①～の施策の方向で、取組の主体は市と市民・事業者である。計画の通例的に、ここで課題として認識した上で、後段の施策の体系・展開で取り組みを示すという流れをつくっているが、端的に「取り組んでいきます」としても同じことである。
副部会長	そうしていくと、重複がでて本が厚くなりがちなので、方向性と取組という感じで書いたらどうか。
コンサル	この資料では、数頁で基本的な方向を俯瞰する部分と考えている。
委員	課題というと、論文でやれなかったことを今後の課題とするような場合もあり、意味が広いが、ここでは、目指して取り組みますということではないか。
部会長	「推進する。」でも意味は同じと思う。内容の部分で、太陽光発電を軸とあるが、他になにがあるのか。小水力などが想定されるのか。
事務局	情報収集はしているが、現状で小水力は考えていない。小風力は過去に試みた結果、難しいとなった。今のところ、太陽光発電が流山市に適しているという判断で、将来的な技術については調査を継続していく。
コンサル	生態系の関連で、有害鳥獣や外来種の実情はどうか。特に対策がなければ位置付けの必要がない。
事務局	市内でハクビシンは確認されているが、アライグマはあまり聞かない。
委員	市内に猟友会もなく、鳥獣害対策はあまりやっていないと思う。農業でも、タヌキに食べられたような話は聞くが、大きな問題にはされていない。利根運河では外来植物のアレチウリの駆除を、市と一緒にやっている。
事務局	有毒のアリやクモの情報是一部寄せられている。温暖化にともなって有害生物に対する関心はあると思うが、計画の方向性に書くほどの問題とはなっていない。
部会長	農地生態系のかく乱や農地保全を脅かすものとしておけばよいと思う。
委員	実情がわかれば教えて欲しい。
事務局	ハクビシンは農政課が、スズメバチなどは消防が、苦情対応を担当している。
委員	カラスも多いし、本当は鳥獣害、有害生物への取組があったほうがよい。
事務局	苦情に対する個別対応と、専門的な見知の必要から県が担当するようになっている。
事務局	スズメバチは数が増えており危険もあるので、消防での対応が難しくなっており、専門業者

	にという方向にシフトしている。
コンサル	この部分は削除し、今後庁内で求められれば再検討する。
副部会長	課題では長くなるので、取り組みますとできないか。
部会長	課題とすれば、すなわち取り組むということではないか。
コンサル	骨子ということで、現段階の段取り上は課題としているが、文末は「重要です」「求められています」等で読みやすくするよう検討する。
委員	農林地という用語でよいか。今は森林法上の森林や林業はないと思う。谷筋の林、平地林、屋敷林など色々な林があるが、通常には斜面林で通用している。農地と斜面林は分けた方がよいかもかもしれない。
コンサル	斜面林は、地目上は山林と思われるが、確認して、誤解のない用語にする。農林地としたのは、農政との連携を想定したものである。
副部会長	市内には発電所がないが、電気がどこからきているか解るか。
委員	1個所ではなく各地から送っているようで、震災後の停電がブロックごとであったのはそのためである。
委員	変電所は野田にあり、野田は震災時も停電にならなかった。
副部会長	ごみ焼却では給湯だけか。
事務局	発電と余剰分の売電も行っている。
委員	原発については反対等ではなく減災のスタンスであるが、これが正しいのであろう。
コンサル	方向として特出しするかどうかは、検討を要する。
事務局	公共施設の除染は終わり、現在は転入者向けの測定等を行っている。放射性物質汚染対処特措法の改正等もあるので、放射能の特出しについては議論が必要。
副部会長	自宅の雨水マスが気掛かりである。
事務局	部分的に放射線量率が高めだと思うが、一時期よりは確実に下がっている。
コンサル	今後、基本目標以下の総合的な部分の肉付けは主に市の各部署との検討によると思うが、重点的なほうについて、部会や審議会で話し合っていきたい。
副部会長	この先は課題を見ながら、各部署が施策をつくるということか。
コンサル	現段階で見えている施策を整理し、各部署の事業の環境での位置付けがわかるようにしていく。一方、重点的なほうは、環境基本計画を動かしている、進捗が感じられるという象徴的な部分と考えている。
事務局	具体的な数値目標を持った部分は、生物多様性、地球温暖化対策、ごみ処理のそれぞれの実行計画にある。この計画にあたっては、実行性があり、総花的にならず、わかりやすく、薄くてびしっとしたものが命題となっている。基本計画として実行性を担保するものをどうするか、今の段階では、推進策を検討しておくことが、実行性につながるように思っている。そのあたりはどう思われるか。
委員	生物多様性戦略は2年後に見直しの予定で、その後は10年毎となっているので、2年後にやらなければならない。他の実行計画も同様と思う。
コンサル	基本計画として、10年のロードマップを予算も視野にがちりつくるのは難しいだろうが、萎縮して方向性が見えないのもよくない。例えば、生物多様性戦略の見直しをきっちり書

	き、その際の検討課題も明らかにしておくなどが考えられる。
委員	生態系ネットワークを作ることと、人のネットワークをつくることの2つの目標がある。そのためには、拠点を広くしないといけない。そういう方向性は書いておきたい。
コンサル	人の部分をどう作っていくかの方向付けをしたい。市レベルでは、そこが要点と思われる。
委員	ごみについても地球温暖化についても、同様と思う。
部会長	PDCAで、何を実行するのかを決めるのがプランである。チェックするときの基準、大元がプランになる。それが機能するように作るのが運用側にとっての実行性となる。市民にとっては、市に意見を言うときに根拠となるのが基本計画である。そこが曖昧にならないようにすることが重要である。
副部会長	「市が取り組む」、「市が働きかけて市民が取り組む」の2つのレベルがある。市民が取り組んだことを市民がチェックして、それを市が吸い上げて市がチェックして、できているかどうかを公表する、ということがされないと、市ではやるべきことはやったと思っけていても、市民がやっていないということが起きる。市がやったというのではすまされない段階があると思う。市民が取り組みやすいように市民におろしていく、市民自身はちゃんとやったかどうかを自分達で実感できないと、取り組めない、やれない、みんなでという気持ちにつながらない。そこを考えて、何かやっていけたらと思う。
部会長	計画は、市民活動の根拠となる。
副部会長	根拠が必要。どういう単位で仲間意識でやるかなど。例えば自治会が取り組んでいきやすいようなサポートをしていって、自治会レベルで集約していって、こういうことができましたとする。自分達で地域の花壇等管理もしているし、一所懸命やっていると思う、そういうことはそれなりに評価してあげればいい、市は評価するやり方を考えて欲しい。例えば地区花壇を評価するのであれば、コンテストやってもいいし、広報に掲載してもいいし、いろんな評価の仕方があると思う。
事務局	いい話をきいた場合はできるだけ取材をしてホームページに載せるなどしているが、統計的にその効果を把握するまでには至っていない。
副部会長	継続的に市民を巻き込んで行けるようなシステムを考えられたらよい。
事務局	市民の自発的な活動を、計画に位置付け、市のほうでもわかり、市民にもわかるようにする。
副部会長	もうすでにやっていることを位置付けることも大事と思う。

2. アンケートの自由記載欄の属性別分析について（コンサルタントによる説明）

委員からの意見等

発言者	要旨
コンサル	「将来に残したい場所」の自由記載について居住年数、年代、居住地区、性別で集計した。また、最後の自由意見について、居住年数20年以上のものを抽出した。
委員	市野谷を残したいという人は中部と南部の人が多く、利根運河は北部の人が多く。傾向は何かありそう。新川耕地は居住地区で差がない。江戸川は南部の人で、住まいに近いところという感じか。生物多様性の拠点を決めるときもそうだったが、市職員でもあまり知らない。流山にいても、いろんなところを知らないケースが多い。

副部長	グリーンバスの利用状況はどうなっているか。年代で必要性の違いもありそう。
事務局	利用者数は担当部署でわかるが、年代別は把握していないかもしれない。グリーンバスもある程度の収益が必要で、北部のほうも路線見直しがされた。
副部長	そういうところでは、企業のバスに乗せてもらうことができるのか。
事務局	高齢者だと、病院のバスに乗れるようやっている。

◆意見の要点

- 望ましい環境像を、「水・緑・風土の豊かさを、子どもに残そう、森のまち・流山」とし、10年後、風土、森のまち等がわかるよう説明をつける。
- 計画の背景について、長文が読みにくいこと、基本的事項から目標への流れを断ってしまうことから、参考資料として扱い、また、ストーリーを持たせて読みやすくする。
- 環境問題の解説は、国際的には国連人間環境会議（1972 スtockホルム）をスタートとし、また、国内の公害や自然保護からの流れも踏まえ、端的にまとめる。よいキーワードの活用、小中学生の学習も考慮する。
- 基本目標1について、里地とオオタカという言葉を除き、水を用いた表現とする。
- 農林地では違和感があるため、適切な用語を検討する。
- 有害鳥獣等は項目としては扱わず、内容に含める。
- 放射能対策については、項目とするかどうか、引き続き検討していく。
- 基本目標から課題を経てという流れでは、冗長になりがちなので、端的に取組につなげるよう、検討する。
- 生物多様性の拠点の偏りに対して、拠点の充実を課題とし、2年後の見直しを視野に方向性を検討する。
- 重点的な取組や人の部分について、実行性を担保するものとして、次回、引き続き検討する。